

◆ 特別展 ◆

生誕百年 中川紀元 1892—1972

KIGEN NAKAGAWA

A PAINTER OF JAPANESE MODERN PERIOD



黒いきモノ
1920年

1992年8月5日(水)—9月13日(日)

開館時間：午前9時—午後5時(入館は4時30分まで)

休館日：8月9日(日)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)／9月7日(月)

入館料：一般200(160)円、小・中学生100(80)円 ※ () 内は20人以上の団体料金

渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

画家・中川紀元(1892-1972)は、長野県の漢学者の家に生まれ、東京美術学校中退後、二科展に出品していましたが、1919年にパリに渡り、マチスに師事して、エコール・パリの空気のもとに学びました。大胆に単純化した一連の婦人像を滞欧中に制作し、帰国した彼は、当時の日本画壇に、新鮮な衝撃と大きな反響をもって迎えられました。以後、「マチスの人と作品」など同時代美術を紹介する著作の出版、前衛グループ・アクションの結成(1922年)と、中川紀元は大正アヴァンギャルドの先端をいく活動を展開したのです。

しかし1920年代後半から、紀元は徐々に東洋画に目を向けはじめます。幼少より和漢籍に親しんでいた彼は、急速に日本帰郷していき、「東洋的な油彩画」という、当時のすべての洋画家たちに共通の問題に答えを出すべく、模索を続けました。そうしたな



人物 1964年



人物 1953年

かで、1930年代には日本画を制作し、六潮会の創立に参加し、従軍画家として参戦もしています。

第2次大戦でアトリエを消失し、疎開していた紀元は、再び上京して、水墨画的な油絵に新境地を開きました。それは、初期にパリで学んだ画風が、日本的な叙情という彼自身のリアリティをもって結実されたものといえるでしょう。晩年は、仏教を主題に、洒脱なかろみをもつ画面を制作するなどして独自の境地を開き、恩賜賞を受賞しました。

今までまとまって回顧される機会の少なかった中川紀元の作品の全貌を、生誕百年を機会に見通すことで、中川紀元の新たな評価の契機とするとともに、彼を通して、日本近代美術を再考する機会ともなるよう願ってやみません。

■講演会 8月15日(土) 午後2時より
講師：北澤憲昭(美術評論家)
「中川紀元にみる日本のモダニズム」

- 美術映画会(午後2時より)
 - 8月22日(土) 美術のみかた1:「セザンヌと造形」「視覚の変貌」
 - 9月5日(土) 美術のみかた2:「構図の探求」「絵画を読む」
- 美術相談(午後2時より)
 - 8月8日(土) 講師：磯村敏之(洋画), 畑農照雄(版画)
 - 9月6日(日) 講師：遠藤原三(洋画), 戸田康一(日本画)

渋谷駅下車徒歩15分/神泉駅下車徒歩5分
東京都渋谷区松濤2-14-14/TEL. 03(3465)9421/2-14-14 SHOTO SHIBUYA-KU, TOKYO

